今号のきら星☆さん　案内グループ　菅野佳子さん

22階の展望フロアーは、景色を眺めているだけで非日常の世界に自分を置くことができます。ハリーポッターになったような気分になれる魔法のフロアーです。

日常では会話が苦手と感じていても、いざ展望フロアーに立つと、初めて会うお客様と会話ができてしまいます。

私は、小さな事でも満足できればその日の活動に意義があると思い、その自己満足を求めて活動しています。自己満足が得られないときもありますが…

案内グループの活動は、天文Gや科学Gのように内容が決まっていません。でも、柔軟な活動ができる案内Gの活動を、私は気に入っています。これからも周りの方々に助けられて細く長く続けていきたいと思っています。

天ボラの 知識の泉 37

● 実視等級と絶対等級

冬は星がきれいに見える季節だと言われます。冬の星座を代表するオリオン座のベテルギウスを中心に、おおいぬ座のシリウスなど、周囲の6つの1等星をつないだ冬のダイヤモンドも冬の星空をきれいに見せる一因でしょうか。

この7つの1等星を明るい順番に並べると「シリウス、カペラ、リゲル、プロキオン、ベテルギウス、アルデバラン、ポルックス」となります。

これは、地球からの見え方で決められた等級での順番です。この条件での等級を、実視等級または見かけの等級と言いますが、この場合、地球から恒星までの距離がその等級を決める要素の一つとなります。

では、地球からの距離を同じにした場合、明るさの順番はどのように変わるのでしょう。

地球からの距離を10パーセク（32.6光年）と仮定して決めた等級を絶対等級と言います。絶対等級での順番は「リゲル、ベテルギウス、アルデバラン、カペラ、ポルックス、シリウス、プロキオン」となり、実視等級で全天一明るいシリウスは、絶対等級では一番ではありません。ちなみに、実視等級では2等星のふたご座のカストルは、絶対等級にすると、同じふたご座のポルックスより明るい星です。

もし、今見えている夜空の恒星を全て同じ距離にしたら、明るい星が暗かったり暗い星が明るかったりと全く異なる星空が見られることでしょう。星座も、今とは違う星座が作られているかもしれませんね。

（伊藤　智美）

スペースパークボランティア大募集！

郡山市ふれあい科学館スペースパークでは、生涯学習ボランティアを募集しています。現在、当館では幅広い年代層のボランティアの方々が活躍しています。私たちと一緒に楽しんでみませんか。興味がある方は、お気軽にお問い合わせください。

※無償参加可能な方。他応募条件有り。

詳しくはお問合せください。

問合せ先：郡山市ふれあい科学館 管理課

TEL.024-936-0201

S.P.V 活動情報（～3月）

ほかに公民館など市内出張活動を予定

案内サービス

“昔懐かし”紙芝居（約15分）
◇随時実演 ☆展望ロビー（北）

鉄道ジオラマ

ジオラマショー案内
（約20分）
◇11:00～、15:00～、17:00～
☆展望ロビー（東）

科　学

かんたん科学工作ほか
◇土日祝10:00～15:30
☆展示ゾーン入館者対象

天　文

天体観望会
◇3 /15（土）
19:00～20:00

市内出張活動　◇3月予定　喜久田公民館

※科学館休館日を除く。なお都合により活動が休止となることがありますのでご了承下さい。

★『S.P.Vつうしん』発行予定　第40号 3月下旬★

★S.P.Vの楽しくてタイムリーなボランティア活動情報をHPでお知らせしています

HPアドレス http://www.space-park.jp

募集や活動等についてのお問合せは……郡山市ふれあい科学館 TEL.024(936)0201まで

編集あとがき

（山）イベントや出張活動が相次ぐ時期。10周年特集も加わり誌面も大賑わいです。
（古）16～17両の新幹線がのびのびと走れるようなレイアウトを来年に向けて考案中。
（星）宙を飛ぶＩＳＳに「若田さ～ん」と手を振ってみる・・・！！
（原）今年も残りわずかとなりました。皆様にとって馬く行く年になりますように♪

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C004144
この印刷物は、FSC®認証紙と環境にやさしい植物油インキを使用しています。紙へリサイクル可。

●スペースパークボランティアの会●

S.P.Vつうしん

第39号 2013/dec.

発行:スペースパークボランティアの会 広報部会　〒963-8002 福島県郡山市駅前2-11-1 郡山市ふれあい科学館内 TEL.024(936)0201

もうすぐ 10周年イベント

スペースパークボランティアの会(S.P.V)が発足してから間もなく丸10年になろうとしています。平成16年(2004年)2月15日に案内サービス、鉄道ジオラマ、科学、天文の4グループ総勢104名でスタートした集団ですが、市民の皆様に温かく支えられそして活動にも参加いただいていることは、毎年学生たちは進学･就職などで、勤労者は転勤、主婦や退職組は自分自身の健康や家族の看護･介護などでやむなく退会される方がいても、常に100名以上の会員を有していることの表れであり、生涯学習とボランティア活動を両輪としたすばらしい活動グループです。

そうできるのも、科学館の館長はじめ職員の皆様によるご理解の賜物によるところが大きいわけですが、会員各人が郡山市を、いや福島県を代表するふれあい科学館で活動できる喜びと、未知の人との出会いが新鮮さと感動に満ちて、充実と満足感を体験しているから出来ることです。

10周年を迎える行事は平成26年(2014年)2月16日の午後、まず第11回総会を開き次年度の計画を決めた上で、記念式典ならびに記念講演会を行います。10年間歩んだ記録をS.P.Vつうしんやその時期の報道記事と写真などで顧みることが出来ます。その後は会場を変えて祝賀会を行います。懐かしい面々との再会も期待できますので、きっと楽しい宴になるでしょう。会員の皆様のご協力で成功させましょう。

（久野　功）

10周年記念行事について

平成26年 2/16(日)

- 13:30～14:30
  総会
  平成25年度事業報告
  平成26年度事業計画案
  役員改選　等
- 15:00～16:30
  記念式典･講演会
- 17:45～20:00
  祝賀会

記念イベントの成功に向け
実行委員会もヒートアップ！

ボランティア研修旅行記inアクアマリン

平成12年、平成19年に続いて3度目のアクアマリンボランティア研修だった。今回は、3･11の大震災被害の共有化と迅速な復興を祈願すること、10周年の節目を迎えるS.P.Vが、先輩たちの活躍の中身から私たちの活動のエネルギーとなる何かを探り出すことが目的である。

四倉インターチェンジから海岸線をバスで通り、震災被害の状況を車窓から見ながらアクアマリンに向かった。海岸線は大きく崩れ、防波堤は破壊され倒壊し、住居跡は土台を残し放置された現状から、復興の道のりは遠いと実感する。アクアマリンは震災年の11月15日に再オープンし、それから2年になるが、施設の周辺にはガレキの山が点々としており、立入り禁止フェンスが目に付く。一部の施設は工事中であったが、休日とあって来館者で賑わっていた。

シーラカンスのカブト作り体験

1時間近く3グループに分かれて双方の会員同士で、自由意見交換を行った。現在15期生のボランティア会員を募集中で会員数は231名いるが、年中無休の上にボランティア担当区割りがはっきり決まっているため、最低限の活動者確保が必要となり、人員の調整や研修によるレベルアップなど、真剣に取り組んでいた。そのために、月2回の活動回数を厳しく管理しているとの報告があった。平均年齢が65歳と高齢化し、若い会員確保が課題となっている。その後は自由行動となり4階から1階に向けて各人思い思いに行動した。確かに以前に比べてボランティアの活動場所が増え、皆さん張り切っている様子が感じられる。話しかけると笑顔で対応してくれて楽しく活動していた。

ボランティア交流会では、活発に議論が交わされました。

S.P.Vも発足後間もなく11年を迎えます。先輩のアクアマリンボランティアの会に誇れるような活動を生み出すように全員参加で続けていきましょう。

（久野　功）

S.P.V 活動の歩み

鉄道ジオラマ

私が初めてS.P.Vに参加したのは、平成14年6月でした。当時鉄道ジオラマグループは34名おり、ボランティア総数は約100名でした。この10年を振り返りますと、たくさんの思い出があります。

当時なかなか応募がなく、関係機関では滝田さんや新田さんが主軸となって努力されたそうです。お客様との接遇にあたっては、服装や髪形、そしてお声がけの仕方など細かく指導された記憶があります。現役時代ではわからなかったことも多々あり、若干の苦労もしました。活動においてはお客様に話かけることに始まりますが、解説してもほとんど聞いてくれない方もおり、こちらではやる気があってもなかなか思うようにはいかないようです。

行事では、鉄道フェスティバルの開催が毎年待ち遠しく、また、他館視察研修については数多く参加しました。当館のボランティアは、他館にも劣らず立派に前進していると思います。それぞれ施設により規模は違いますが、今我々にできることを実行に移し、努力すれば良いと思います。10周年を迎え、心より皆様に御礼申し上げるとともに、今後の益々の発展を祈念してやみません。

（草野　二通）

科学グループ

私の所属する科学グループは、鉄道ジオラマボランティアの結成から1年遅れて、平成15年7月に案内グループ・天文グループとともに1期生27名で活動を開始しました。平成16年2月に全4グループで「スペースパークボランティアの会(S.P.V)」が結成され、満10年が経過しました。これまでの活動を振り返ると長かった様な気もしますが、楽しかったことが多く、「あっ」という間のような気もします。それでも、活動開始時に撮影した会員証の顔写真をみると、確実に時間の経過を物語っています。

私のUSBメモリーには創成期から平成20年度までの科学グループ活動計画や全体会(ボランティアミーティング)の資料がしっかりと保存されています。それらの資料をあらためて見直すと、毎月の全体会での活動の方向性について「自主性の尊重」や「科学館からの力強いバックアップの要望等」について熱い議論を戦わせたことや、冷や汗ものの自主イベント、新メニューへの挑戦、数多くの館外活動(出前講座)などを思い出します。そして一部にはそれらの方向性になじめず、残念ながら退会された会員もおります。そんななかでも、科学館の高島さんや石原さんなど、熱心で個性的なスタッフに支えられ、懇親会と称した飲み会や国立天文台野辺山観測所と水沢観測所への自主ツアーの実施など、会員相互の交流を深める事業も数多く実施してきました。

科学グループの1期生には伊藤さん、井原さん、加藤さん、川中さん、木村さん、佐藤(和)さん、高田さんなど、熱心な方々が多くおられましたが、諸事情で退会され、現在でも活動を継続しておられるのは、大渕さん、菊池さん、国分さん、佐藤(博)さん、関根さん、吉田さんと少なくなりました。しかしながら、若い人もそうでない人もどんどん入ってきて、科学グループの主力となって活躍されており、心強い限りです。

科学グループは、4グループの館内活動では唯一入場料を支払った人を対象としており、一人でも多くのリピーター客を呼べるよう楽しみながら活動していきたいと思います。（山﨑　久夫）

案内グループ

S.P.Vグループに入会させて頂いてから、アーッと言う間に10年が経ちました。歌の文句ではありませんが、この間いろいろな事がありました。たのしい事ばかりでしたが、少しつらいこともありました。私は、当時案内ボランティアリーダーだった佐久間秀子さんの依頼を受けて、ミニツアー(郡山市の歴史跡探索して案内ボランティアの皆さんをご案内する事)の役目を戴き、以来、私の担当分17回を実施させて頂きました。私がミニツアーの役目を戴いた事から、ミニツアーの話題として書かせて頂きます。

郡山の歴史書を読んでも歴史跡は簡単には見つかりません。特に苦労したのは足利幕府の篠川御所(天皇や将軍が住んだ所を御所と呼ばれた)をどうしても知りたくて懸命に捜しました。郡山の歴史書では笹原酒造所の近くとなっておりましたが、地図には載っておりません。JR安積永盛駅の近くの方に聞いたり、人づてに聞いても判らず、そのあたりのお寺で場所を聞きましたところ、流石はお寺の住職さんで、詳しく教えてくれました。発見した時の感動は筆舌に著せません。その他、猛吹雪の中を捜した所もありましたが、発見できないままになって居るところもあります。こういった場所をお客様に説明する事もありますが、郡山市民以外はあまり関心が無いようです。なんとか郡山の市民の方々に関心をもって頂くよう、民報にうねめまつりの伝説について投稿したところ、8月6日付けでふれあい科学館歴史案内ボランティアとして私の氏名を掲載していただきました。なんとか多くのお客様に来て頂き、あの手この手でお客様に吹聴したいと思って居ります。

私は個人プレーが多く、館のスタッフの方に大変サポートをして頂きました。自由に活動させて頂いた事を、心から感謝を申しあげます。現在は体調不良と歩行困難で活動を休ませて頂いて居りますが、回復した暁には、もっともっと郡山の歴史を掘り下げてみたいと思います。

（先崎　豊）

天文グループ

天文ボランティア談議「この10年を思う」

～小野町の秘密基地にて～

S1「皆さんは天文ボランティアに入ったきっかけはなんですかね?」

Sげさん「子供と親子天文教室に参加し、その時天体望遠鏡を作っている事を話したら、科学館の人から、ぜひその望遠鏡で大接近中の火星を見せてくださいといわれたのがきっかけかな?」

I泉さん「科学館が出来て子供が天文クラブに入り、その送迎をしていたとき目に入ったボランティア募集の広報ポスターを見て、興味が沸き入会しました。入った1年目は皆勤賞でした!」

T田さん「市の広報で募集があり、勧められたのがきっかけかな?」

S1「科学館の15cm望遠鏡が使える!と思った不純な動機です…」

「この10年いろんなことがありましたね～。まず思い出すのが火星の大接近!世紀の大接近だったので観望会も盛り上がりましたね。それと名古屋であった愛・地球博もみんなで行きましたね。」

I泉さん「わたしは名古屋のプラネでも寝てたかな～」

T辺さん「この小野町の秘密基地でも、カノープスの北限観測の取材がありましたね。テレビカメラで撮影したのが放送されたのは初めてではないですか!」

S1「みんなで、上海の皆既日食へ遠征もしましたね～。前日まで40℃を超す猛暑だったのに、当日は日食が始まったとたん夕立みたいな大雨と雷で、皆既が始まるころには漆黒の闇に包まれ、黒い太陽は見られなかったけど貴重な体験でしたね!?今度日本で起きる日食はみんなで見たいですね～。2035年だからまだかなり先ですけどね!」

T田さん「天文ボラは天文時間ですから!??」

ゆるーく流れる天文ボラのひと時、下界のしがらみを忘れさせてくれる、そんな心地よい仲間が天文ボランティアの宝です。

（齋藤　正一）

鉄道グループ活動報告

鉄道フェスティバル　10月12日～14日開催

鉄道ジオラマボランティアに入って4度目となった鉄道フェスティバル。私が担当したNゲージ操作体験では、今年デビューしたE6系新幹線スーパーこまちやE5系はやぶさはもちろん、EH500(愛称金太郎)、0系新幹線などが盛大に走っていました。

私も、購入したばかりの415系1500番台、キハ58系ふるさと、205系2WAYシート車、そしていつもの700系、E721系を走らせました。当初700系は持って行かないつもりでしたが、常連の小学生に「N700Aを持ってきたから、すれ違いやりたいから持ってきて！」と言われ、持っていくことにしました。実際の新幹線のすれ違いは好評でした。途中でE6系の調子が悪くなり、代わりに私の車両が入ることもありました。

今年は就職先が決まり、仕事の都合で13日しか参加することが出来ませんでしたが、無事に鉄道フェスティバルを終えることが出来たので何よりです。　（鉄道グループ　古田　高廣）

案内・天文・科学グループ活動報告

ウィンターフェスティバル　11月3日開催

11月3日(日)3連休の中日、私達「案内サービス」グループ7名は「科学グループ」「天文グループ」と共に参加活動に1日頑張りました。

予報では心配された天気も、好天に恵まれ幸運でした。

10時に市の関係者によるオープンセレモニーがありスタート、私達の活動場所は駅前大通りに近い北側です。大町通りでも「笑商」という名称で同時に開催でした。

客足のほうは最初のうちはまばらでしたが、11時ごろになると、徐々に多くなってきて昼ごろになると科学工作のブースは順番待ちができるほど賑やかになり、子どもたちも夢中になって喜んでいる状況でした。同時に紙芝居の演技も、リクエストが出るほどで、ちょっと休憩したいなと思われるほどでした。

夕方4時の終了時間まで「1日いっぱい頑張った！」の感想でした。お客さんにはありがとうの心で、自分にもお疲れ様の1日でした。

（案内グループ　池田　哲雄）

科学グループ出張活動報告

2013/8/31 富田西地域公民館「西っ子クラブ」

2013/10/5 大成地域公民館「大成なかよしクラブ」

公民館への出張活動が多く、地域の子ども達と様々な工作・実験を楽しみました。風船ロケットやタネの実験といった科学工作だけでなく、頭を使うパズルやお土産としても嬉しいしゃぼん花にも挑戦!ボランティアの参加も多く、終始和気あいあいとした雰囲気で盛り上がりました。

ここのところはね…。

2013/10/26 サンフレッシュ郡山「安積地区市民文化祭」

生憎の天気に地域の他イベントが重なり来場者は少なかったものの、ぶっとびロケットで皆さんに楽しんで頂きました。悠々とした体育館でロケット飛ばし放題という、何とも贅沢な環境!マイロケットで元気にはしゃぎ回る子ども達の姿がそこかしこで見られました。

2013/11/9 行健小学校 親子活動

来館した親子活動の一環として工作教室を開催するという、科学ボランティアとしては初めての取り組みとなりました。三十数組の親子で室内は熱気ムンムン!ご家族が温かく見守る中、4年生の子ども達は元気に、また真剣に種の工作・実験に取り組みました。仲間を増やすため、うまく風に乗るべく進化してきた色々な形の種。飛び方の違いが分かったかな!?

2013/12/1 こども暮れのつどい

先日の大きな体育館で子ども達が主役のレクリエーション祭が開催され、科学グループで ブース出展しました。今回用意したのは風船ロケットと紙トンボ!終始列が絶えないほどの 大賑わいです!!作り上げ、試射を迎える度に、その見事な飛びっぷりに拍手が沸き起こったり、眼を真ん丸にしたり…子ども達の表情にボランティアも大いに楽しませてもらいました。

（科学グループ 山田 善貴）